

令和  
6  
年度

# いよぎのおまじ

# 6

教師用



愛知教育文化振興会  
三河教育研究会

みなさん、  
いっしょに べんきょう  
しましょうね。



ことばのきまり  
イメージキャラクター  
ことちゃん

## 目次

一	熟語の構成……………	1
二	文と文のつながり つなぐ言葉の使い分け……………	4
三	漢文に親しもう……………	6
四	場面に応じた言葉づかい……………	8
五	複合語……………	10
六	似た意味の言葉の使い分け……………	12
七	表現をくふうする……………	14
八	六年間の復習……………	16

表紙 岡崎

カット 幸田

豊橋 みよし

浅井 優子先生

成田 綾香先生

鳴田 佑子先生

大須賀貞治先生

吉田 祐示先生

河合 桂子先生



第六学年 「ことばのきまり」と教科書の関連表

「新しい国語」六年 東京書籍（令和六年度版）

		ことばのきまり						教科書	ページ
八	六年間の復習	熟語の構成	熟語	三字以上の熟語の構成	文と文のつながり つなぐ言葉の使い分け	漢文に親しもう	漢文に親しもう	70	
七	表現をくふうする	文と文のつながり つなぐ言葉の使い分け	指示語 接続語	漢文	敬語	複合語	複合語	124	
六	似た意味の言葉の使い分け	熟語	三字以上の熟語の構成	漢文に親しもう	漢文	複合語	複合語	184	
五	似た意味の言葉の使い分け	熟語	三字以上の熟語の構成	漢文に親しもう	漢文	複合語	複合語	202	
四	似た意味の言葉の使い分け	熟語	三字以上の熟語の構成	漢文に親しもう	漢文	複合語	複合語	242	
三	似た意味の言葉の使い分け	熟語	三字以上の熟語の構成	漢文に親しもう	漢文	複合語	複合語	88・68	
二	似た意味の言葉の使い分け	熟語	三字以上の熟語の構成	漢文に親しもう	漢文	複合語	複合語	44	
一	似た意味の言葉の使い分け	熟語	三字以上の熟語の構成	漢文に親しもう	漢文	複合語	複合語		



「ことばのきまり」学年別指導内容一覧表

第一学年		第二学年		第三学年	
項	もくじ	項	もくじ	項	もくじ
一	ことばあそび 1	一	かん字の書き方	一	国語じてんの使い方
二	ことばあつめ 1	二	かたかなで書くことば	二	漢字の表す意味
三	にごる おん	三	かたかな表記の言葉	三	意味の違い
四	ぶんを つくろう	四	擬音語 外国語	四	漢字の多義性
五	くつつきの「は・へ・を」	五	外国人名・地名	五	慣用句
六	てんと まる	六	形容詞等	六	こそあど言葉
七	つまる おん はねる おん	七	句読点	七	漢字の読み方
八	ことばあつめ 2	八	かぎ(「」)	八	俳句に親しもう
九	ことばあそび 2	九	名詞 動詞	九	くわしく表す言葉
十	のぼして よむ ことば	十	主語・述語	十	漢字の組み立てと意味
十一	ちいさい「や」「ゆ」「よ」	十一	上位語・下位語	十一	ローマ字
十二	音や ようすを あらわす	十二	数詞	十二	漢字の読み方
十三	かん字あつめ	十三	送りがな	十三	国語辞典の使い方
十四	かたかな	十四	対義語	十四	意味の違い
十五	よう日と 日づけ	十五	同義語	十五	漢字の多義性
十六	よぶ ことば	十六	音節・同音異義語	十六	慣用句
十七	かぎ	十七	部首・形	十七	指示語
十八	かたかな	十八	複合動詞	十八	音訓
	にている かん字				送りがな
	字形				三句十七音
					季語
					主語(あたま)のかぎり
					述語(からだ)のかぎり
					形容詞・形容動詞・副詞
					漢字の構成
					部首
					大文字・小文字
					長音・拗音・
					拗長音・促音等



第四学年		第五学年		第六学年	
項	もくじ	項	もくじ	項	もくじ
一	漢字辞典の使い方	一	敬語	一	熟語の構成
二	ことわざ・故事成語を使おう	二	漢字の成り立ち	二	文と文のつながり つなぐ言葉の使い分け
三	文の組み立てと修飾語	三	いにしえの言葉に親しもう いにしえの人のえがく世界	三	漢文に親しもう
四	つなぐ言葉	四	思考に関わる言葉	四	場面に応じた言葉づかい
五	じゆく語の意味	五	どうやって文をつなげれば いいの？	五	複合語
六	百人一首に親しもう	六	熟語の構成と意味	六	似た意味の言葉の使い分け
七	同じ読み方の漢字	七	和語、漢語、外来語	七	表現をくふうする
八	かなづかい	八	日本語と外国語	八	六年間の復習
九	文末の言い方	九	方言と共通語		
十	伝わりやすい文				
十一	ローマ字の書き方				
	指導内容		指導内容		指導内容
	部首索引 ことわざ 故事成語 主語・述語・修飾語 文と文の接続関係 接続詞 接続助詞 熟語 五句三十一音 百人一首		尊敬語・謙讓語 丁寧語 象形文字 指事文字 会意文字 形声文字 古文 文末表現 接続語 熟語 和語、漢語、 外来語 語順 方言・共通語		熟語 指示語 接続語 漢文 敬語 複合語 類義語 比喩・倒置・反復



〔用語対照表〕

文法用語													提出学年		備考																						
句	常	敬	文	接	上	同	擬	擬	類	対	慣	多	複	連		連	述	主	指	接	助	助	連	副	形	形	動	名	1年	2年	3年	4年	5年	6年			
体	体	語	語	語	語	異	態	声	義	義	用	義	合	修	修			示	続	詞	詞	詞	詞	動	容	容	詞	詞	1年	2年	3年	4年	5年	6年			
					32・33		25	25	35・36							5	5				7																
					25	32	9	8	33・34	30			35・36			19	18									13	17	16									
											12	8		26	26			16						26	26	26											
						28								12	12	9	9		15	9					12	12											
	4	1	12																																		
		8	7										11								5																
丸・点・かぎ					なかまになることば				かたかなで書くことば	はんたいのいみのことば	慣用句	言葉のえらび方	組み合わせたことば	からだのかぎり	あたまのかぎり	文のからだ	文のあたま	こそあど言葉	つなぎ言葉	くつつきの「は・へ・を」							ようすことば	ようすことば	うごきことば	名前ことば(数詞も含む)							



# まとめのテスト

(使い方)

○長期の休みに入る前の時期に、まとめのテストを実施する。

○実施するページを増し刷りして、使用する。

○児童に自己採点させたり、教師が採点したりして評価する。

○定着が不十分なら、振り返って学習する。

## 六年まよめのテスト② (P8~P11)

※各五点

名前

点

- 一次の漢文からきた言葉と意味を正しく線をつなげましょう。
- (一) 過ぎたるはおよばざるがごとし → やりすぎ足りないこと同じくらいよくない。
  - (二) 春眠を覚えず → 春が来ては起きないが、草木が春を覚えずと変わらず、春の夜は暖かくて寝こちがよいので、朝が来てもなかなか目を覚まさない。
  - (三) 国やぶれて山河あり → 城春にして草木深し
  - (四) 巧笑倩兮、美目盼兮 → 君が子に義にさとり、小人は利にさとり
  - (五) 為さざるなり、あたわさるにあらざるなり → できないのはよしとして、ないからである。
  - (六) 聞一以知十 → 昔のことはじっくりと学んで、そこに新しい考え方を見つけ出すことができれば、人の師となれるだろう。
  - (七) 温故而知新可以為師矣 → 一つのことを聞いただけでは、十のことを覚える。
  - (八) 不入虎穴不得虎子 → 大きな利益を得るためには危険や負担を覚悟してこれにあたればならない。
- 二次の場面では、どのような言い方をすればよいてしょう。
- あとの……から選んで、( ) に記号を書きましよう。
- (一) 目上の人に図書館への行き方をたずねる場合
- (ア) 図書館への行き方を教えて(ウ)。
- (イ) 友達に何かしてもらいたいと思っっている場面
- (エ) あそこにある荷物を取って(イ)。
- (ア) ちよつと、いいですか。イ、くれないかな。
- (ウ) いただけませんか。エ、ちよつと、いい。
- 三次の言葉を組み合わせて複合語を作りましよう。
- (一) 動く + 出す → (動き出す) ( )
- (二) 校長 + 室 → (校長室) ( )
- (三) 練習 + 問題 → (練習問題) ( )
- (四) 見る + 守る → (見守る) ( )
- (五) 着る + かざる → (着かざる) ( )
- (六) 学習 + つくえ → (学習つくえ) ( )
- (七) チョコレート + パフェ → (チョコレートパフェ) ( )

## 六年まよめのテスト① (P15~P5)

※各五点

名前

点

- 一次の熟語はどう分けられますか。下の「I」から選び、記号で答えましよう。
- (一) 新聞紙 (二) 練習日 (三) 心技体 (四) 無制限 (一)
- (五) 運動会 (二) (六) 上中下 (三) (七) 衣食住 (三) (八) 新記録 (一)
- 二次の熟語はどう分けられるか。例のように「I」を使って書きましよう。
- (例) 卒業文集 → (卒業) 文集
- (一) 春夏秋冬 → (春) 夏 | 秋 | 冬 (二) 校外学習 → (校外) 学習
- (三) 学校保健委員会 → (学校) 保健 | 委員会 (四) 地球温暖化 → (地球) 温暖 | 化
- (五) 未確認生物 → (未) 確認 | 生物 (六) 移動性高気圧 → (移動) 性 | 高 | 気圧
- (七) 宇宙飛行士 → (宇宙) 飛行 | 士 (八) 国立美術館 → (国立) 美術 | 館
- 三次の前の文の「つなぐ言葉」に注意して後の文をあとどの「I」から選び、記号で答えましよう。
- (一) 兄は算数が得意だ。さらに (イ) (二) 妹は走るのが速い。しかし (ア)
- (三) 遊園地に行きたい。なぜなら (ウ) (四) 食べたいのはケーキですか。それとも (エ)
- ア 球技は苦手だ。イ 国語も得意だ。
- ウ 観覧車に乗りたいたからだ。エ クッキーですか。
- 一次の文のうち、聞き手によく印象をあてる文に○を付けましよう。
- (一) ( ) 明日、ひまですか。
- (二) ( ) 明日、お時間ありますか。
- (三) ( ) 君はどても向上心が強いですね。
- (四) ( ) 君はどても負けずらいな水ですね。
- 二次の文の「線部を、書き手が好ましい様子としてとらえて、言葉に直すと、適切な言葉をから選び、記号に○を書きましよう。
- (一) 雨が降ったせいで、試合が中止になった。
- (二) おかげで、イから、ウのため
- (三) 小さな子どもたちが遊んでいる声がわがしい。
- (四) アうさぎ、イい、にぎやかだ。ウやがましい
- (五) 兄はおせつだ。
- (六) 雨が降ると、イ世話好きだ
- (七) 雨が降ると、イ世話好きだ
- (八) 雨が降ると、イ世話好きだ
- 三次の文の中で、比喩を用いているものには①、言葉の順番を入れかえているものには②、言葉くり返しているものには③を書きましよう。
- (一) かのじよのはだは雪のように白い。
- (二) 小鳥たちが歌う。
- (三) 小鳥たちが歌う。
- (四) 青く青くすむわたる空。
- (五) 青く青くすむわたる空。
- (六) 青く青くすむわたる空。
- (七) 青く青くすむわたる空。
- (八) 青く青くすむわたる空。
- 四 次の文を、比喩を使った表現に書きかえましよう。
- (一) 妹のほおは赤かった。
- (二) 妹のほおはまるでりんごだ。
- (三) 雨がたくさん降っている。
- (四) 雨がたきのように降っている。
- (例) 雨がたきのように降っている。
- 五 次の文を、言葉の順番を入れかえる前の文にしましよう。
- (一) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )
- (二) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )
- (三) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )
- (四) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )
- (五) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )
- (六) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )
- (七) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )
- (八) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )

## 六年まよめのテスト③ (P12~P15)

※各五点

名前

点

- 一次の文のうち、聞き手によく印象をあてる文に○を付けましよう。
- (一) ( ) 明日、ひまですか。
- (二) ( ) 明日、お時間ありますか。
- (三) ( ) 君はどても向上心が強いですね。
- (四) ( ) 君はどても負けずらいな水ですね。
- 二次の文の「線部を、書き手が好ましい様子としてとらえて、言葉に直すと、適切な言葉をから選び、記号に○を書きましよう。
- (一) 雨が降ったせいで、試合が中止になった。
- (二) おかげで、イから、ウのため
- (三) 小さな子どもたちが遊んでいる声がわがしい。
- (四) アうさぎ、イい、にぎやかだ。ウやがましい
- (五) 兄はおせつだ。
- (六) 雨が降ると、イ世話好きだ
- (七) 雨が降ると、イ世話好きだ
- (八) 雨が降ると、イ世話好きだ
- 三次の文の中で、比喩を用いているものには①、言葉の順番を入れかえているものには②、言葉くり返しているものには③を書きましよう。
- (一) かのじよのはだは雪のように白い。
- (二) 小鳥たちが歌う。
- (三) 小鳥たちが歌う。
- (四) 青く青くすむわたる空。
- (五) 青く青くすむわたる空。
- (六) 青く青くすむわたる空。
- (七) 青く青くすむわたる空。
- (八) 青く青くすむわたる空。
- 四 次の文を、比喩を使った表現に書きかえましよう。
- (一) 妹のほおは赤かった。
- (二) 妹のほおはまるでりんごだ。
- (三) 雨がたくさん降っている。
- (四) 雨がたきのように降っている。
- (例) 雨がたきのように降っている。
- 五 次の文を、言葉の順番を入れかえる前の文にしましよう。
- (一) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )
- (二) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )
- (三) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )
- (四) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )
- (五) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )
- (六) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )
- (七) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )
- (八) 待つてくだささい、そのジュースを飲むのは、( )

# 六年まよめのテスト① (P1～P5)

※各五点

名前
----

点
---

一 次の熟語はどうか分けられますか。下の から選び、記号で答えましょう。

- (一) 新聞紙 ( )      (二) 練習日 ( )      (三) 心技体 ( )      (四) 無制限 ( )
- (五) 運動会 ( )      (六) 上中下 ( )      (七) 衣食住 ( )      (八) 新記録 ( )

③	②	①
○	○	○
○	○	○
○	○	○

二 次の熟語はどうか分けられるか、例のように | を使って書きましょう。

〈例〉 卒業文集 ↓ ( 卒業 | 文集 )

- (一) 春夏秋冬      ↓ ( )      (二) 校外学習      ↓ ( )
- (三) 学校保健委員会      ↓ ( )      (四) 地球温暖化      ↓ ( )
- (五) 未確認生物      ↓ ( )      (六) 移動性高気圧      ↓ ( )
- (七) 宇宙飛行士      ↓ ( )      (八) 国立美術館      ↓ ( )

三 次の前の文の「つなぐ言葉」に注意して後の文をあと の から選び、記号で答えましょう。

- (一) 兄は算数が得意だ。さらに ( )      (二) 妹は走るのが速い。しかし ( )
- (三) 遊園地に行きたい。なぜなら ( )      (四) 食べたいのはケーキですか。それとも ( )

ア 球技は苦手だ。 ウ 観覧車に乗りたいからだ。	イ 国語も得意だ。 エ クッキーですか。
-----------------------------	-------------------------



# 六年まとめのテスト② (P6 ~ P11)

※各五点

名前

点

一 次の漢文からできた言葉と意味を正しく線でつなげましょう。

(一) 過ぎたるはおよばざるがごとし

・ やりすぎは足りないことと同じくらいよくない。

(二) 春眠暁を覚えず

・ 戦によつて都はこわされてしまったが、大自然の山や河はずっと変わらず、町は春をむかえて、草木が生い茂っている。

(三) 国やぶれて山河あり 城春にして草木深し

・ 春の夜は暖かくてねごちがよいので、朝が来てもなかなか目を覚ますことができない。

(四) 巧言令色、すくなし仁

・ よくできた人は何をすべきかを考え、つまらない人は何をすれば得かを考える。

(五) 君子は義にさとり、小人は利にさとる

・ 話がうまく、だれにでもいい顔をする人の中に、思いやりのある人はめつたにいない。

(六) 為さざるなり、あたわざるにあらざるなり

・ できないのはしようとしていないからである。

(七) 聞一以知十

・ 昔のことをじっくりと学んで、そこに新しい考え方を見つけ出すことができれば、人の師となれるだろう。

(八) 温故而知新 可以為師矣

・ 一つのことを聞いただけで、十のことをさとる。

(九) 不入虎穴 不得虎子

・ 大きな利益を得るためには危険や負担を覚悟してことにあたらねばならない。

二 次の場面では、どのような言い方をすればよいでしょう。

あとの          から選んで、( ) に記号を書きましよう。

三 次の言葉を組み合わせさせて複合語を作りましよう。

(一) 目上の人に図書館への行き方をたずねる場合

(一) 動く + 出す ↓ ( )

(二) 友達に何かしてもらいたいと思っっている場面

(二) 校長 + 室 ↓ ( )

(三) 友達に何かしてもらいたいと思っっている場面

(三) 練習 + 問題 ↓ ( )

(四) 友達に何かしてもらいたいと思っっている場面

(四) 見る + 守る ↓ ( )

(五) 友達に何かしてもらいたいと思っっている場面

(五) 着る + かざる ↓ ( )

(六) 友達に何かしてもらいたいと思っっている場面

(六) 学習 + つくえ ↓ ( )

(七) 友達に何かしてもらいたいと思っっている場面

(七) チョコレート + パフェ ↓ ( )

ア ちよつと、いいですか。 イ くれなひかな  
ウ いただけませんか エ ちよつと、いい。



# 六年まとめのテスト③ (P12 ~ P15)

※各五点

名前

点

一 次の文のうち、聞き手によい印象をあたえる文に○を付けましょう。

- (一) ( ) 明日、ひまですか。
- (一) ( ) 明日、お時間ありますか。
- (二) ( ) 君はとても向上心が強いですね。
- (二) ( ) 君はとても負けずぎらいな人ですね。

二 次の文の——線部を、書き手が好ましい様子としてとらえている言葉に直すとき、適切な言葉から選び、記号に○を書きましよう。

- (一) 雨が降ったせいで、試合が中止になった。  
ア おかげで イ から ウ ため
- (二) 小さな子どもたちが遊んでいる声がさわがしい。  
ア うるさい イ にぎやかだ ウ やかましい
- (三) 兄はおせっかいだ。  
ア 面倒見がよい イ 世話焼きだ  
ウ 口やかましい
- (四) 君ってけちなんだね。  
ア しんぼう強いね イ 物を大切にするんだね  
ウ みみっちいね
- (五) 父はあきらめが悪い。  
ア ねばり強い イ しつこい ウ くだい

三 次の文の中で、<sup>ひゆ</sup>比喩を用いているものには①、言葉の順番を入れかえているものには②、言葉をくり返しているものには③を書きましよう。

- (一) ( ) かのじよのはだは雪のように白い。
- (二) ( ) かれは言った。大きな声で言った。
- (三) ( ) 小鳥たちが歌う。
- (四) ( ) ついに終わった、夏休みが。
- (五) ( ) 青く青くすみわたる空。
- (六) ( ) 書類の山ができています。
- (七) ( ) 待って、もうすぐ来るはずだから。
- (八) ( ) かれの走る姿はまるでチーターだ。
- (九) ( ) 空が泣いている。

四 次の文を、<sup>ひゆ</sup>比喩を使った表現に書きかえましよう。

- (一) ( ) 妹のほおは赤かった。
- (二) ( ) 雨がたくさん降<sup>ふ</sup>っている。

五 次の文を、言葉の順番を入れかえる前の文にしまし<sup>し</sup>よう。

- (一) ( ) 待ってください、そのジュースを飲むのは。
- (二) ( ) がんばれ、きつとうまくいくはずだから。



## 一 熟語の構成

【教科書P44～P45】

※言葉の構成への関心を高めさせる。

漢字三字の熟語の構成には、次のようなものがあります。

- |   |       |     |     |            |
|---|-------|-----|-----|------------|
| ① | ○—○○  | 新学期 | 大自然 | 一字の語+二字熟語  |
| ② | ○○—○  | 児童会 | 学級会 | 二字熟語+一字の語  |
| ③ | ○—○—○ | 大中小 | 陸海空 | 一字の語が三つならば |

(一) 次の熟語はどう分けられるか、右の□の中の①②③の記号を書きましよう。

- |   |     |       |   |     |       |   |     |       |
|---|-----|-------|---|-----|-------|---|-----|-------|
| 1 | 高学年 | ( ① ) | 2 | 衣食住 | ( ③ ) | 3 | 再発行 | ( ① ) |
| 4 | 国有林 | ( ② ) | 5 | 温度計 | ( ② ) | 6 | 心技体 | ( ③ ) |
| 7 | 想像力 | ( ② ) | 8 | 好景気 | ( ① ) | 9 | 上中下 | ( ③ ) |

熟語の構成を的確にとらえると、その言葉がどんな意味を表しているのかを正しく理解することができます。

できます。



試してみよう

静岡県総合教育センター  
言葉の部屋「三字熟語」

(二) 四字以上の熟語の構成には、いろいろなものがあります。  
 次の熟語はどう分けられるか、例のように―を使って書きましょう。

〔例〕 卒業文集

卒業―文集

1 特急列車

特急―列車

3 理解不十分

理解―不―十分

5 未確認生物

未―確認―生物

7 空想科学小説

空想―科学―小説

9 学校保健委員会

学校―保健―委員―会

2 東西南北

東―西―南―北

4 地球温暖化

地球―温暖―化

6 国立美術館

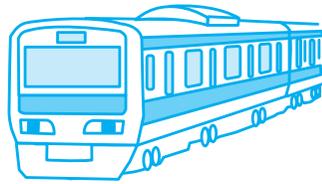
国立―美術―館

8 移動性高気圧

移動―性―高―気圧

10 防災対策強化地域

防災―対策―強化―地域





「君・手・店」などは、他の単語の下について意味をそえ、新しい単語を作るのに使われます。「性的・化」のように、漢語の名詞の下について、そのようすを表すものがあります。

(三) 次のことばのあとに、下の  の漢字やひらがなの中から合うものを選んで書きましょう。

1 神	様
2 読み	手 <sup>て</sup>
3 運転	手 <sup>しゅ</sup>
4 くつ	屋
5 寒	気
6 山本	君
7 先生	方 <sup>がた</sup>
8 満足	感

方<sup>がた</sup> 気 君 感 屋 様 手<sup>しゅ</sup> 手<sup>て</sup>

(四) 次の漢語のあとに、下の  の中から合うものを選んで書きましょう。

1 共通	性・化
2 科学	的・性
3 機械	化・的
4 芸術	性・的
5 代表	的
6 可能	性
7 映画	化
8 国際	性・的・化
9 野生	的・化

性的 化的 性

**化**  
「～のように変わる」  
「～のように変える」

**性**  
「～の性質」  
「～の程度」

**的**  
「～のような」  
「～の性質をもつ」





① これは私が焼いたクッキーだ。

② 私が焼いたクッキーはおいしかった。

①と②の文はそれぞれ③と④のように書きかえることができます。

③ 私がクッキーを焼いた。これはそのクッキーだ。

④ 私がクッキーを焼いた。そのクッキーはおいしかった。

修飾の関係が長くなったり、複雑になったりするときは、**指し示す言葉**を使い文を分けることができます。

次の文章を読んでみましょう。

⑤ ぼくは六時に起きた。朝食を食べ、したくをして、七時半に家を出た。そして、八時に学校に着いた。

では次の⑥の印象は、⑤と比べてどうちがうでしょう。

⑥ ぼくは六時に起きた。ぼくは朝食を食べ、したくをして、七時半に家を出た。そしてぼくは八時に学校に着いた。

⑥は⑤と比べて少しくどいように感じます。主語がない⑤のほうが、うまく読み進められるのではないでしょう。

### 文末の表現に着目する

次の文章の一文目と二文目のつながりをとらえましょう。

⑦ このモアイ像を、石切り場から運ぶために森林がぎせいとなった。重さが何トンもある巨大な像を運んでゆくに、森林から切り出された木が利用されたのである。

⑧ しかし、その繁栄は決して長くは続かなかった。太い木が、切りつくされてしまったからである。

⑦の二文目は、「森林がぎせいになった」ことをくわしく説明しています。⑧の二文目は、「長くは続かなかった」こと理由を説明しています。このように、文末に着目することで、文と文とのつながりをとらえることができる場合があります。

文の中にある主語と述語の関係は  
ほかの言葉を修飾することができます。

練習問題



## つなぐ言葉の使い分け

【教科書 P88 ～ P89】



「つなぐ言葉」とは、前の文と後の文をつなぎ、関係をはっきりさせる働きがあります。「つなぐ言葉」には、教科書 P88 ～ P89 のように、いくつかの種類があります。

(一) 次の前の文の「つなぐ言葉」に注意して後の文を選び、記号で答えましょう。

- 1 兄は算数が得意だ。さらに（イ）
- 2 妹は走るのが速い。しかし（ア）
- 3 遊園地に行きたい。なぜなら（ウ）
- 4 食べたいのはケーキですか。それとも（エ）

- |                |            |
|----------------|------------|
| ア 球技は苦手だ。      | イ 国語も得意だ。  |
| ウ 観覧車に乗りたいからだ。 | エ クッキーですか。 |





### 三 漢文に親しもう

【教科書P70～P73】

みなさんは、「百聞は一見にしかず」という言葉を知っていますか。「人の話を何度も聞くよりも、一度自分の目で見るほうがよくわかる。」という意味です。ふだんの生活の中でも使われるこの言葉は、もとは中国から来たものです。

昔の中国では、次のように書き表していました。

百聞不如一見

このような文を漢文といいます。日本人は、これを理解するために、日本語として読むためのくふうをしました。ほかに昔の中国で生まれた言葉はたくさんあり、わたしたちの生活の中で使われています。

(一) 次の漢文の意味としてふさわしいものを線で結びましょう。

1 聞 一 以 知 十

2 温 故 而 知 新 可 以 為 師 矣  
一つのことを聞いただけで、十のことをささる。

昔のことをじっくりと学んで、そこに新しい考え方を  
見つけ出すことができれば、人の師となれるだろう。

3 不 入 虎 穴 不 得 虎 子

大きな利益を得るためには危険や負担を覚悟してこと  
にあたらねばならない。

(虎穴に入らずんば 虎子を得ず)



(二) 次の漢文からできた言葉の意味を正しく線で結びましょう。

1 過ぎたるはおよばざるがごとし

戦によって都はこわされてしまったが、大自然の山や河はずっと変わらず、町は春をむかえて、草木が生い茂っている。

2 春眠 曉を覚えず

やりすぎは足りないことと同じくらいよくない。

3 国やぶれて山河あり

城春にして草木深し

話がうまく、だれにでもいい顔をする人の中に、思いやりのある人はめったにいない。

4 巧言令色、すくなし仁

よくできた人は何をすべきかを考え、つまらない人は何をすれば得かを考える。

5 君子は義にさとり、

小人は利にさとる

春の夜は暖かくてねごちがよいので、朝が来てもなかなか目を覚ますことができない。

6 為さざるなり、

あたわざるにあらざるなり

できないのはしようとしていないからである。



見てみよう



NHK for School  
おはなしのくにクラシック  
「漢詩『春暁』」

漢文からできた言葉には、ほかにもたくさんあるよ。





#### 四 場面に応じた言葉づかい

【教科書 P124 ～ P125】

わたしたちは、生活の中で、相手や場面に応じて言葉を選んで使い分けています。次の二つの文を読み比べてみましょう。

・ 同級生に対して ↓ 「ねえ、このえん筆借りてもいいかな。」

・ 先生に対して ↓ 「先生、このえん筆をお借りしてもいいですか。」

この場合、話す内容が同じであっても、目上の人である先生に対して話すときは、敬語を使います。

「お借りする」は「借りる」のけんじよう語、「です」はていねい語です。また、改まった場面や、話す内容、相手の状況によって、ふさわしい言葉づかいをします。しかし、言葉づかいはていねいでも、使い方が適切でないと、相手にいやな思いをさせてしまうことがあるので、注意が必要です。

・ 来客に対して 「駅まで送ってあげます。」と言うと、相手はどんなことを考えるでしょうか。教科書を参考にして考えてみましょう。

(一) 次の場面では、どのような言い方をすればよいでしょう。 ———— の部分を書き改めましょう。

1 自分のおばあさんが言ったことを、老人会の代表の人に伝える。

「おばあさんは、来週の敬老会は欠席すると言っていました。」

〔例〕 祖母は、来週の敬老会は欠席すると申しておりました。

2 卒業式にお祝いに来たお客さんを、体育館まで案内する。

「体育館はあちです。わたしが、案内します。」

〔例〕 体育館はあちらです。わたしが、ご案内いたします。

(します)



(二) 次の場面では、どのような言い方をすればよいでしょう。

から選んで、( ) に記号を書きましよう。

1 目上の人に図書館への行き方をたずねる場合

(ア) 図書館への行き方を教えて(ウ)。

2 友達に何かしてもらいたいと思っている場面

(エ) あそこにある荷物を取って(イ)。

ア ちょっと、いいですか。

イ くないかな

ウ いただけませんか

エ ちょっと、いい。



見てみよう



NHK for School  
お伝と伝じろう  
「目上の人と話すとき」



## 五 複合語

【教科書 P184 ~ P185】



- ① 見る 送る ↓ 見送る  
 ② 家庭 訪問 ↓ 家庭訪問  
 ③ オレンジ ジュース ↓ オレンジジュース

右のように、①は和語、②は漢語、③は外来語が組み合わせることで、①見送る  
 ②家庭訪問③オレンジジュースといった新たな言葉が生まれる場合があります。こ  
 のような言葉を**複合語**といいます。複合語には次のような組み合わせがあります。

○和語と和語の組み合わせ

- ・ 筆箱 (筆の 箱)
- ・ 早起き (早く 起きる)

○漢語と漢語の組み合わせ

- ・ 特別価格 (特別な 価格)
- ・ 管理事務所 (管理するための 事務所)

○外来語と外来語の組み合わせ

- ・ デジタルカメラ (デジタルの カメラ)
- ・ メロンジュース (メロン味の ジュース)

(一) 次の言葉を組み合わせ、複合語を作りましょう。

- |   |      |      |   |   |         |   |
|---|------|------|---|---|---------|---|
| 1 | 話す   | 合う   | ↓ | ( | 話し合う    | ) |
| 2 | 書く   | 表す   | ↓ | ( | 書き表す    | ) |
| 3 | 高級   | 車    | ↓ | ( | 高級車     | ) |
| 4 | 特別   | 番組   | ↓ | ( | 特別番組    | ) |
| 5 | テニス  | ラケット | ↓ | ( | テニスラケット | ) |
| 6 | サッカー | ボール  | ↓ | ( | サッカーボール | ) |



その他にも、複合語にはさまざまな言葉の組み合わせがあります。

○和語と漢語

桜前線

(桜の 前線)  
 →和語 →漢語

○外来語と漢語

ピアノ教室 (ピアノの 教室)  
 →外来語 →漢語

○和語と外来語

輪ゴム

(輪の ゴム)  
 →和語 →外来語

教室にあるピアノのことを「教室ピアノ」とは言わないね。



「野球少年」と「少年野球」は意味がちがうよね。





複合語を作るとき、元の言葉の音が変化する場合もあります。

- 雨（あめ）＋かさ ↓ あまがさ
- こわい＋こわい ↓ こわごわ
- 酒＋屋 ↓ 酒屋（さかや）
- 鼻＋血 ↓ 鼻血（はなぢ）
- 入学＋試験 ↓ 入学試験 ↓ 入試
- 通信＋はん売 ↓ 通信はん売 ↓ 通はん
- カーナビゲーション ↓ カーナビ
- シャープペンシル ↓ シャーペン

長くなった複合語は、短く縮めて表現される場合があります。

(二) 次の複合語を短く縮めて表現しましょう。

- 1 高等学校 ( 高校 )
- 2 国際連合 ( 国連 )
- 3 パトロールカー ( パトカー )
- 4 ラジオコントロール ( ラジコン )
- 5 エアコンディショナー ( エアコン )
- 6 パーソナルコンピューター ( パソコン )

日本語には、複合語がたくさんあるよ。ほかにどんな複合語があるのか調べてみるとおもしろいよ。





## 六 似た意味の言葉の使い分け

【教科書 P202 ~ P203】

①兄はおせっかいだ。

②兄はめんどう見がよい。

①の文も②の文も、——線部に人の世話をよくする様子を表す言葉が使われていますが、②の文の方がよい印象を与えます。このように、意味が似ている言葉でも、あたえる印象が異なる場合があります。

(一) ——線部の表現に注意して、聞き手により印象をあたえる文に○を付けましょう。

1 ( ) 君のように仕切りたがりの人がいると、物事が早く決まる。  
 (○) 君のようにリーダーシップのある人がいると、物事が早く決まる。

2 ( ) 明日、ひまですか。  
 (○) 明日、お時間ありますか。

3 ( ) まだやっているなんて、あきらめが悪いなあ。  
 (○) まだやっているなんて、ねばり強いなあ。





③ 小さな子どもたちが遊んでいる声がにぎやかだ。 ④ 小さな子ども達が遊んでいる声がさわがしい。「にぎやか」と「さわがしい」は、音や声が大きい様子を表すという点で共通しています。しかし、「にぎやか」はその様子を好ましくとらえ、④の「さわがしい」はその様子をよくないものとしてとらえているという、書き手のとらえ方のちがひがあります。

(二) 次の文の——線部を、書き手が好ましい様子としてとらえている言葉に直します。適切な言葉を

から選び、記号で書きましよう。

1 君は何事にもでしゃばりな人ですね。(イ)

ア 強引な      イ 積極的な      ウ 目立ちたがりな

2 その洋服の柄がら、とても古くさくてすてきですね。(ア)

ア 伝統的で      イ 古めかしくて      ウ 流行おくれで

3 そんなに小さくなるまでえんぴつを使うなんて、君ってけちなんだね。(ウ)

ア しんぼう強いね      イ しみったれたね      ウ 物を大切にするんだね

意図を正しく伝えるためには、言葉の意味だけでなく、あたえる印象にも注意して、その場にふさわしい言葉を選ぼう。





## 七 表現をくふうする

【教科書 P242 ~ P245】

言葉を選び表現をくふうすることによって、自分の感じたことや思ったことを、より印象的に伝えることができます。

① 比喩を使う……あるものを別のものにたとえて表現することで、いきいきと様子を伝えることができます。

例 あの雲はわたあめのようだ。 人生とは旅である。 風がささやいた。

② 言葉の順番を入れかえる……言葉の順番を入れかえることで、印象を強めることができます。

例 おいしいね、このお店のケーキは。 あの人だったのか、ぼくを助けてくれたのは。

③ 言葉をくり返す……同じ言葉や似た言葉をくり返すことで、印象を強めることができます。

例 前へ前へと進んでいく。 会いたい。はやく会いたい。

(一) 次の文の中で、比喩を用いているものには①、言葉の順番を入れかえているものには②、言葉をくり返しているものには③を書きましよう。

1 かのじよのはだは雪のように白い。 ( ① )

2 かれは言った。大きな声で言った。 ( ③ )

3 小鳥たちが歌う。 ( ① )

4 ついに終わった、夏休みが。 ( ② )

5 青く青くすみわたる空。 ( ③ )

6 書類の山ができています。 ( ① )



(二) 次の文を、ひゆ比喩を使った表現に書きかえましょう。

1 妹のほおは赤かった。

〔例〕 妹のほおはりんごのように赤かった。  
妹のほおはまるでりんごだ。

2 雨がたくさん降ふっている。

〔例〕 雨がたきのように降ふっている。

(三) 次の文を、言葉の順番を入れかえる前の文にしましょう。

1 待ってください、そのジュースを飲むのは。

〔例〕 そのジュースを飲むのは、待ってください。

2 がんばれ、きつとうまくいくはずだから。

〔例〕 きつとうまくいくはずだから、がんばれ。



参考にしよう



東広島市「詩のポイント」

読み手にあたえる  
印象を考えながら、  
自分の文章にも表現  
のくふうを取り入れ  
てみましょう。



# 八 六年間の復習

一年生

◎ これまでのことばのきまりで学習した内容の問題です。復習してみましょう。

(一) 絵を見て、合う言葉を書きましょう。



- おね え さん
- お う さま
- かきご お り
- れ い ぞ
- う こ

(二) 次の  の中に、「は・わ・へ・え・を・お」のどれかを書きましよう。

1 わたし は、か わ いい動物が好きです。

2 お母さん は、 は みがきをしています。

3 ぼくは、一人で家 へ 帰りました。

4 わたしは、公園 へ 妹をむか え に行きました。

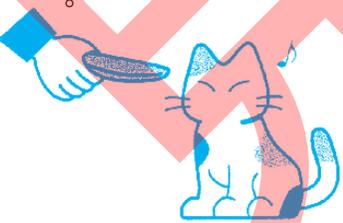
5 ぼくは、ねこにかつ お ぶし を やりました。

6 手 を しっかり上げて横断しましょう。

を・お

へ・え

は・わ



ひらがなで書くときに「お」と書く言葉にはこんなものがあるよ。

「とおくの こおりの 上を おおきな おおかみ」とお とおる。  
(たひき)

「とおくの こおろぎ おおあわて。」とおぼえるよ。

こんな 植物も あるよ。

ほおずき



(三) 次の〔 〕の中は、どちらが正しいでしょう。よい方を○で囲みましょう。

1 ぼく  
〔 わ 〇は 〕  
、せみ  
〔 お 〇を 〕  
つかまえに、裏山  
〔 え 〇へ 〕  
行きました。

2 ライオンは、  
〔 おり 〇をり 〕  
のちで  
〔 えさ 〇へさ 〕  
を食べています。

3  
〔 わたし 〇はたし 〕  
は、学校  
〔 え 〇へ 〕  
弁当  
〔 お 〇を 〕  
持っていきました。

(四) 次の漢字の、( )の上を書いてある以外の読み方を書きましょう。

一日 いちにち ( ついたち )

三日 さんにち ( みっか )

五日 ごにち ( いっか )

七日 しちにち ( なのか )

九日 くにち ( ここのか )

二十日 にじゅうにち ( はつか )



八日と十日の読みがなは  
まちがいが多いよ。  
一年生の学習を思い出し  
て正しく覚えよう。



(一) ———— のことばの書き方が正しい方に○をつけましょう。

1  
 (○) ( )  
 石ころが池にぽちゃんとおちた。

2  
 ( ) (○)  
 時計がリーンと鳴った。

3  
 (○) ( )  
 くつがピカピカひかる。

4  
 ( ) (○)  
 星がきらきらかがやいている。

(二) 次の漢字の点線の部分は何画目でしよう。何画目か数字で書きましょう。

火  
 2

中  
 4

女  
 3

右  
 1

遠  
 11

早  
 4

長  
 1

左  
 2

音はかたかなで、  
 様子はひらがなで  
 書くよ。



※擬声語(擬音語)はカタカナ、擬態語はひらがなで表すことを確認する。



(三) 反対の意味になる言葉を書きましょう。

1 強い

弱い

4 短い

長い

7 貸す

借りる

2 広い

せまい

5 軽い

重い

8 のびる

縮む

3 熱い

冷たい

6 明るい

暗い

9 開ける

閉める

(四) 次の物を数えるときには、どんな言葉を後につければよいでしょう。

1 えんぴつ

本

4 くつ

足

7 本

冊

2 りんご

個

5 いす

きやく

8 うさぎ

羽

3 下じき

枚

6 とうふ

丁

9 自動車

台

※「閉じる」は「開く」の反対になる言葉。



(一) 「高い」を、必要ならば文に合うように形を変えて( )の中に書きましょう。

1 もっと( ) **高く** ( )とびたい。

2 気温が( ) **高い** ( )日が続く。

3 フェンスが、もう少し( ) **高けれ** ( )ば、ボールが川に落ちなくてすんだのに。

(二) ——— の言葉は、どれを指しているでしょう。( )の中から選んで( )で囲みましょう。

1 向こうから大きなトラックがやってきた。それを見た店の人たちは、急いで表に出てきた。

( 向こう ・ **大きなトラック** ・ 店の人たち ・ 表 )

2 机の上にえんぴつがあります。それを取ってください。

( 机 ・ 上 ・ **えんぴつ** )

3 「遠くに丸いものが見えるね。」「あつ、本当。あれはいったい何かな。」

( 遠く ・ **丸いもの** ・ いったい )

4 きれいな花がさいています。これを妹にプレゼントしよう。

( **きれいな花** ・ 妹 ・ プレゼント )



(三) 次の言葉の意味は下のどれになるでしょう。線で結びましょう。

- |   |         |   |
|---|---------|---|
| 1 | さじを投げる  | ● |
| 2 | 水に流す    | ● |
| 3 | 手も足も出ない | ● |
| 4 | しびれを切らす | ● |
| 5 | 火に油を注ぐ  | ● |
| 6 | 目が回る    | ● |
- どうにもできないこと。  
● 見こみがないとあきらめること。  
● 今までのことをすべてなかったことにすること。  
● 勢いの強いものに、さらに勢いを加えること。  
● 待ちくたびれて、がまんができなくなるること。  
● 非常にいそがしいこと。

(四) ローマ字で書きましょう。

- かわ kawa
- はる haru
- みかん mikan
- おんぶ onpu

(五) 次のローマ字を読みましょう。

- otôsan ( おとうさん )
- tyokinbako ( ちょきんばこ )
- kappa ( カッパ  
かっぱ )
- yakyû ( やきゅう )
- hon'ya ( ほんや )

※、がないと honya (ホニャ) と読めます。



(六) 次の部首の名前を書きましよう。

							へん
ネ	ネ	冫	言	シ	禾	木	イ
(ころもへん)	(しめすへん)	(こざとへん)	(ごんべん)	(さんずい)	(のぎへん)	(きへん)	(にんべん)
	4			3			2
	あし		かんむり			つくり	
心	ハ	宀	艹	艸	冫	文	欠
(こころ)	(れれんがつか)	(うかんむり)	(くきかんむり)	(たけかんむり)	(おおざと)	(ぼくづくりのぶん)	(あくび)
		7		6			5
	たれ			によう		かまえ	
疒	冫	宀	走	辶		門	回
(やまいだれ)	(がんだれ)	(まだれ)	(そうによう)	(しんにようしんにゆう)		(もんがまえ)	(くにがまえ)



(七) 次の( ) に漢字を書きましよう。

1 た・つ  
波が(立)つ。  
ビルが(建)つ。

3 か・わる  
だんだん色が(変)わる。  
父に(代)わって、ぼくが行く。

5 はじ・めて  
(初)めて百メートル泳いだ。  
日記を(始)めて三年たった。

2 あつ・い  
とても(暑)い日が続いた。  
(厚)い本を読む。

4 はや・い  
まだ時間が(早)い。  
走るのが(速)い。

6 あ・ける  
席を(空)ける。  
夜が(明)ける。  
戸を(開)ける。

四年生

(一) 例のように、主語には — を、述語には — を引きましよう。

〈例〉 白い 花が 花だんに さいた。

1 きのおう 雨が 降った。

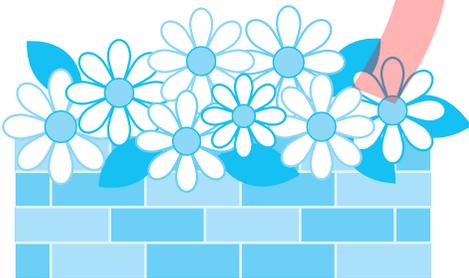
2 おばあさんが わたしに かわいい かばんを くれた。

3 山下さんの 家族も とても にぎやかだ。

4 ぼくの 持っている 筆箱は 新しい。

5 教室には、机が たくさん ある。

※まず述語を見つけてるようにさせる。



(二) 次の文の~~~~の修飾語を□の中から選んで書きましょう。

1 わたしは、一人で(さびしく)立っていた。

2 (あたたかい) 日ざしが、顔の上にふりそそぐ。

3 かん者さんの中には、(高い) 熱を出す人もいる。

4 いろいろな物がそろそろ(便利な) 店が近くにある。

5 (静かな) 音楽がへやの中に流れている。

(三) 意味の通る正しい文にするには、どの言葉を使ったらよいでしょう。よいものを○で囲みましょう。

1 春になった。  
だから、  
しかし、  
つまり、  
ふく風はまだ冷たい。

2 頭が痛い。  
それに、  
つまり、  
ところが、  
おなかも痛い。

3 雨が激しく降ってきた  
の(が)、  
の(で)、  
の(に)、  
今日の運動会は中止になってしまった。

- 高い
- あたたかい
- 便利な
- 静かな
- さびしく



(四) 次の文章を、「( )」の意味をはっきりするように読点を打ち、書き改めましょう。

姉は楽しそうにおどる妹をながめる。

〔楽しそうにしているのが姉の場合〕

( ) 姉は楽しそうに、おどる妹をながめる。

〔楽しそうにしているのが妹の場合〕

( ) 姉は、楽しそうにおどる妹をながめる。

(五) 次の文の主語には――、述語には――、修飾語には――が引いてあります。

~~~~~はどの言葉を修飾しているか~~~~~で示しましょう。

〔例〕妹は、あわてて 行った。

1 わたしの 母は よく 笑う。

2 強<sup>く</sup>そうな 黒い 牛が 急に 出てきた。

3 びっくりした 少年は とつぜん 大声で 泣き出した。



(一) 次の文を  の関係になるように書きかえましょう。

雨が降った。だから祭りは中止だ。

1 逆接

( ) 雨が降ったが、祭りは行われた。

2 仮定

( ) 雨が降ったら、祭りは中止だ。

3 逆接の仮定

( ) 雨が降っても、祭りは行われる。

(二) 次の主語と述語が二組ある文を、一つの文にまとめましょう。

1 ぼくが えんぴつを 買った。 その えんぴつが 折れた。

(例) ぼくが 買った えんぴつが 折れた。

2 妹が 花を 植えた。 これは その 花だ。

(例) これは 妹が 植えた 花だ。

(三) 次の文の主語には――、述語には――を書きましょう。また、つなぐ言葉や

指し示す言葉を用いて、二つの文に分けましょう。

1 ぼくが 植えた 花が さいた。

(例) ぼくが花を植えた。その花がさいた。

2 わたしは 兄が とってきた カブトムシを 見た。

(例) わたしはカブトムシを見た。それは兄がとってきたカブトムシだ。



(四) 次の文中の——の言葉を尊敬語に直し、左の□から選んで、( ) に記号を書きましょう。

1 おばさんが人形をくれた。(エ)

3 お医者様が言ったこと。(ア)

5 今日、家に先生が来る。(イ)

ア おっしゃった

イ いらっしゃる

ウ めしあがる

エ くださった

オ される

カ お買いになった

2 校長先生が話をする。(オ)

4 お客さんが買った洋服。(カ)

6 お客さまが食べるおかし。(ウ)

(五) 次にあげる言葉を「…れる」「…られる」のような形の尊敬語にしましょう。

1 来る ( ) 来られる ( ) 2 飲む ( ) 飲まれる ( )

3 立つ ( ) 立たれる ( ) 4 乗る ( ) 乗られる ( )

(六) 次の文中の——の言葉をけんじょう語に直し、左の□から選んで、( ) に書きましょう。

1 弟が、明日行きます。( ) 参ります ( ) 2 おじさんからカメラをもらった。( ) いただいた ( )

3 校長先生の絵を見る。( ) 拝見する ( ) 4 何も言うことはありません。( ) 申し上げます ( )

5 そのことでしたら、聞いています。( ) うかがって ( )

申し上げる

いただいた

参ります

うかがって

拝見する



(七) 熟語じゆくの構成を考え、の中の語を仲間に分けましょう。

(八) 次の語の読みがなを書きましょう。  
また、漢語には1、和語には2を、  
〈 〉の中に書きましょう。

※ 1は訓読み

1 した意味を表す漢字が組み合わさっている。

- ( 絵 画 )
- ( 海 洋 )
- ( 出 発 )

2 意味が対になる漢字が組み合わさっている。

- ( 開 閉 )
- ( 利 害 )
- ( 有 無 )

3 上の漢字の意味が、下の漢字の意味をくわしく説明している。

- ( 早 春 )
- ( 黒 板 )
- ( 直 線 )

4 上の漢字が動作や作用を、下の漢字がその対象を表している。

- ( 乗 馬 )
- ( 投 票 )
- ( 開 会 )

5 上の漢字が、下の漢字の意味を打ち消している。

- ( 無 効 )
- ( 不 安 )
- ( 未 知 )

7 野原〈 2 〉

( のはら )

5 新年〈 1 〉

( しんねん )

3 個性〈 1 〉

( こせい )

1 通知〈 1 〉

( つうち )

2 花火〈 2 〉

( はなび )

8 休日〈 1 〉

( きゆうじつ )

6 屋根〈 2 〉

( やね )

4 開店〈 1 〉

( かいてん )

|    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|
| 乗馬 | 絵画 | 開閉 | 早春 | 黒板 | 無効 |
| 利害 | 海洋 | 直線 | 不安 | 投票 | 出発 |
| 開会 | 未知 | 有無 |    |    |    |



(一) 次の熟語はどう分けられるでしょう。

の中から選んで、その記号を ( ) の中に書きましょう。

1 衣食住 (ウ)

2 新学期 (ア)

ア ○—○○ 一字の語+二字熟語

3 上中下 (ウ)

4 学級会 (イ)

イ ○○○—○ 二字熟語+一字の語

5 満足感 (イ)

6 再発行 (ア)

ウ ○—○—○ 一字の語が三つならぶ

7 天地人 (ウ)

(二) 次の文の中で、**比喩**を用いているものには①、**言葉**をくり返しているものには②、**言葉の順番**を入れかえているものには③を書きましよう。

1 かのじよのはだは雪のように白い。

( ① )

2 かれは言った。大きな声で言った。

( ② )

3 小鳥たちが歌う。

( ① )

4 ついに終わった。夏休みが。

( ③ )

5 青く青くすみわたる空。

( ② )

6 書類の山ができています。

( ① )



(三) 次の言葉の  の中に、下の  から合うものを選んで書きましょう。

1  無  関心

2  未  完成

3  不  可能

4  非  公式

5  非  常識

6  未  解決

7  無  意味

8  不  自由

(四) 次の言葉につくものを下の  から選んで書きましょう。

1 共通  性・化

2 科学  的・性

3 機械  化・的

4 芸術  性・的

5 代表  的

6 可能  性

化的性

未非無不



漢字でしりとり

開 発 — 発 展 — 展 覧 会

納 税 — 税 金 — 金 属

優 勝 — 勝 負 — 負 傷

防 衛 — 衛 星 — 星 座 — 座 席

令和6年度版 ことばのきまり 6年

編集 「ことばのきまり」編集委員会  
三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会  
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1  
電話 0564-51-4819

印刷 有限会社岡崎活版所

※無断で複写・複製することを禁じます。

※外部ホームページリンク先は、予告なく変更・削除されることもあります。



名 前

年

組

見本